

「虫の思い出」—— 石井為久

私と虫の出会いをはっきり記憶しているのは昭和29年中学校に入ってからだ。学校は山の麓に切り開かれた丘にあり、回りを雑木林で取り囲まれていた。授業の合い間をみては裏山へ出かけた。そこには甘ずっぱい匂いを漂よわせているクヌギの樹液があった。たくさんの虫の集会所だ。そこではカブトムシが大将で次がスズメバチそしてカナブンで弱いのが蝶々でゴマダラチョウ、ヒカゲチョウという具合だ。でも強い者、弱い者仲良く、あるときはチョッピリ押し合いながら群がっている。そのクヌギを揺さぶればカミキリムシが落ちてきた。でも、ときにはヤママユガのでっかい幼虫が頭上に落ちて悲鳴をあげるときもあった。やがて授業再開のサイレンが鳴る。一目散山を駆け下たり、息を切らせて授業が始まる。頭の中はまだ雑木林にあった。そうして次第に虫が好きになった。

やがて、捕虫網を手に入れると虫を追いかけてまわした。甲虫、トンボ、チョウとなんでも集めた。そのうちチョウに魅かれていった。中学の私としては大奮発して原色日本蝶類図鑑を850円で買った。今は亡き祖父に手製の標本箱と展翅板を作ってもらった。今に比べ

ると粗末なものだったが大切にした。自転車の練習もやった。行動範囲が裏山から笠形、雪彦へと広がった。強い陽ざしの中、長い長い坂道を幾度も通った。沿道にチョウの姿を見かけると自転車を放り出して追っかけた。道を行く車もほとんど無く、たまにオンボロバスが来ると叱られた。栗の花に群がるヒョウモンチョウを追うのに小石を投げては叱られた。

やがて、採集のみから虫を育てるのに興味をおぼえた。庭のミカンのアゲハ。畑のモンシロチョウ。市川の堤のエノキにはゴマダラチョウ。また、秋にジュズダマの幼虫を飼ってクロコノマチョウが出たりして驚いた。やがて、高校となり姫路へ通う様になると、虫友達とも離れ離れになり忘れていった。長い間、山に夢中になった……。数年前、虫仲間に出会った。その日、私は古い標本箱を取り出した。十数年前そのままの蝶が並んでいた。再び私の心は自然の中に入り込んでいった。こんな懐かしい思い出を若い人達に、そしてまた私達を育んでくれた自然をいつまでも、いつまでも……。

佐用郡の蝶・前年との比較 黒田 収

佐用南地区で昨年6月15日ヒロオビミドリシジミ♂5♀5。ウラジロミドリシジミ♂2♀1。6月19日ヒロオビミドリシジミ♂2♀3。ウラジロミドリシジミ♂3♀5。ウスイロオナガシジミ♂3採集したので、今年もと意気込んで乗り入ると同地区が $\frac{1}{2}$ 程度開発されているので驚いた。しかし実際調査してみると今年に限り変化はなかった。でも来年は恐らく半分は開発され、そしてあげくの果て皆無になるであろう。悲しい事である。今年のヒロオビ採集行はヒロオビミドリシジミ♂3♀1でその他はウラジロミドリシジミ♂

1。ウスイロオナガシジミ♂3。ウラナミアカシジミ♂1。アカシジミ♀1。ミズイロオナガシジミ♀1採集した。目撃記録はヒロオビミドリシジミ♂3。ウラジロミドリシジミ♂2。アカシジミ♂5♀5程度である。去年同地区で調査した範囲ではオオムラサキゴマダラチョウ、テングチョウ、キタテハ、アカタテハ、ウラギンスジヒョウモン、メスグロヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンシジミ、ウラゴマダラシジミ、キアゲハ等が記録された。